

「レビヤタンの正体(1)」

2020年9月6日

神戸国際キリスト教会 牧師 岩村義雄

主題聖句: ヨブ記 41 章 1 節 「見よ、レビヤタンに望みをかけても裏切られる。それを見ただけでも圧倒される」(『聖書協会共同訳』)。

<序>

レビヤタンは旧約に出ている神話的な怪獣の名前です。水棲のこの生き物について、政治哲学者であるトーマス・ホブズが 1651 年に『リヴァイアサン』を執筆しました¹。『聖書協会共同訳』では「レビヤタン」と訳されています。レビヤタンについて次のように聖書は描写しています。背中に「盾の列」(41 章 7 節), 「その下腹は鋭い土器のかけら」(22 節), 口からは「炎が吹き上がる」(13 節), 鼻の穴からは「煙」が吹き出している(12 節), 心臓は「石」のように硬い(16 節)。「剣を抜いても歯が立たず 槍も手槍も投げ槍も」突き刺すことができません(18 節)。「鉄をわらと見なし 青銅を腐った木と見なす」ほどに、レビヤタンの強さになにもものも立ち向かえません。「淵を鍋のように沸き立たせ」(23 節), 「神々 אֱלֹהִים エリーム《力ある神々》も恐れその破壊の力に慌て惑う」(17 節), 「地の上にはこれに肩を並べるものはない。レビヤタンは恐れを知らぬ被造物だ。これはすべての高ぶるものを見下す 誇り高い獣たちすべての王である」(25,26 節)。

筆者はキリスト教会の牧師です。宗教者ですから核兵器については断固反対です。しかし、原発については平和利用という視点から、キリスト者が積極的に支持してきた歴史的経緯があります。日本において最初の原発研究開発、アメリカの神学者たちのヒロシマ、ナガサキの衝撃から生じた反省から反動、科学技術の進歩が人類に夢を与えるというスローガンの下にキリスト教は無批判に推進をすすめた張本人であったことは事実です。なぜ最初の段階でメルトダウン(炉心熔融)、被ばく、子々孫々にいたるまでの危険性を洞察できなかったのか、悔やみきれない悲しみがあります。「無知」だったでは処理できない禍根です。なぜなら神より技術を信頼し、人類の破局をもたらしたからです。

2011年3月の東日本大震災で、宮城県の女川原発は大丈夫だったのか、不安がよぎりました。あれから110回、東北ボランティアに、ほぼ月に1回訪問して、「田・山・湾の復活」に仕えています。

2020年8月18日、フクシマにおけるスタディツアーに参加させていただきました。被災地を説明して下さる関久雄さんの著書『なによすべ』(どうしたらよいか)の70ページに目が釘付けになりました。「創価学会初代会長牧口常三郎は治安維持法で投獄され獄中で殺されたのではなかったのか 二代目会長戸田城聖も投獄され南無妙法蓮華經のなんたるかを悟り原爆を使用する者は死刑にとまで語り三ツ沢で『核兵器廃絶宣言』をしたのではなかったのか」と。ご自身は創価学会の信者であられるだけでなく、時が移り、再稼働を進める自公政権に咆吼(ほうこう)なさっています。まさに宗教者としての叫びです。

今朝はフクシマを訪問した際、レビヤタンと戦っておられる方との出会いも含めさせていただきます。

¹ 『リヴァイアサン 2』(トマス ホブズ 角田安正訳 光文社古典新訳文庫 2018年)。語源は、「支配する、権力を持つ」を意味するアッカド語の šalātu という解釈もある。Aicha Rahmouni, Divine Epithets in the Ugaritic Alphabetic Texts (translated by J. N. Ford; Leiden: Brill: 2007 p.302-333)。

(1) 「公共的な決定」がはじめから決まっている

a. 女川(おながわ)原発(宮城県牡鹿郡女川町)

東京電力福島第一原発事故から8年を迎えようとする2019年2月に、女川原発2号機の再稼働の是非を問う住民投票は認められませんでした。元陸上自衛官の宮城県村井嘉浩知事は県議会で否決。物足りない論議に11万人の思いが届かなかったことを『河北新報』も一面で報道しました²。それから一年、かすむ民意である声なき声に耳を傾けたかと、『石巻かほく』も東北電力女川原発2号機の再稼働の同意判断が迫る時期に一面で住民の声をとりあげていました³。再稼働を前に、8月6日、村井知事、須田善明女川町長と亀山紘石巻市長は原発敷地内、防潮堤、建屋内を視察。筆者も第94次東北ボランティアの2018年3月19日に「女川原子力PRセンター」(女川町塚浜)を訪問し、発電の仕組み、安全性、フィルターベント装置などを見学しました。村井知事は「厳しい新規性基準に込んでいる」と東北電力の樋口康二郎社長、女川原発の若林利明所長の説明に満足していました⁴。

3.11を経て、女川原発1号が廃炉になった理由、津波の遡上高⁵が防潮堤では無理、建屋がどんな損傷だったかを確認したとはどうも思えない視察報告に素人でも憤慨します。

女川原発再稼働は子孫に負担になることを3首長は命を賭して考える責任があるはずです。

b. 原発はトイレのないマンションと同じ

8月17日(月)に三浦一敏共産党宮城県会議員と石巻市でお会いしました。⁶



「屋内避難や浸水常態エリアの懸念の声が強い」心配があり、石巻市の住民は説明会で厳しい意見がほとんどでしたと言われました。「原発のフィルターベントが使えない時は耐圧ベルトから放射能を放出する危険性がある」、「事故発生の場合、19万人の住民全員が避難するには数日を要する」、「原子力のコストより、太陽光キロ5.5円、風力は8.6円で再生可能エネルギーの方が安い」などと出席者の反対意見が大勢を占めたと語られました。

再稼働住民説明会の初日8月1日に、国の内閣府の担当者が説明。出席者の批判的意見相次いだと、『石巻日日新聞』(2020年8月3日付)は一面で詳述しています。

² 『河北新報』(2019年3月16日付)。

³ 『石巻かほく』(2020年8月18日付)。

⁴ 『石巻かほく』(2020年8月7日付)。

⁵ 『朝日新聞』(2012年3月17日付)。宮城県石巻市の笠貝島(無人島)が遡上高[そじょうこう]最大43.3メートルと東京大地震研究所の都司嘉宣准教授が計測。

⁶ 拙論『明舞9条ニュース』(2020年8月30日)。

身障者、独居の高齢者、認知症の人々は 30 キロも逃げることは不可能です。二階建てではなく平屋に住んでいる足腰の弱った年配の人々、車いすの方たちは水害ならば、垂直に上に逃げる道もあるかもしれませんが。ただし 2020 年 7 月 4 日午前 7 時頃の球磨川(熊本豪雨)のように、二階まで泥が侵入するなら逃げ場はありません。

国や県の机上の避難計画は弱者に対する目線がありません。

東京電力・福島第一原子力発電所(以後「フクイチ」)事故後、原子力規制委員会により再稼働した9基の内、現在運転中の原発は4基ですが、10 月には 2 基だけになります。政府のエネルギー基本計画によると、原発は安く安定的に発電できる「ベースロード電源」と位置づけています。女川原発再稼働について、8 月 19 日、女川町でも、「再稼働を認めなければ地域経済が成り立たない」として再稼働法案は可決されました。

筆者は、ここでも同じかと、ほぞをかみました。作家石牟礼道子[いしむれ 1927-]さんの『苦海浄土』の一節が思い出されました。「水俣病ばこげんなるまでつつき出して、大ごとになってきた。会社が潰るぞ。水俣は黄泉(くれ)の闇ぞ。水俣病患者どころか」と一部の経済優先の態度に失望しておられます⁷。

c. 女川(おながわ)原発(宮城県牡鹿郡女川町)再稼働は子孫に負担

第 110 次東北ボランティアで、8 月 18 日、福島県浪江町で元女川原発作業員⁸であった今野寿美雄さん(55 才)に、浪江町を案内していただきました。

今野さんは、次のように語られました。「原発事故は終わっていません。今なお続いている事故であって、避難者が 3 万人とか 4 万人といいますが、現在も 10 万人以上の方が避難生活を続けているんです。避難者としてカウントされないだけで実は 10 万人が相変わらず避難生活を続けている。これが原発事故の恐ろしさです。原発事故が起きた後のでたらめな帰還政策、政府、国は国民を助けてくれないんだというのがよくわかりました。棄民政策ですからね。そうならないためにも原発に反対してください。止めてください」と。



第 108 次東北ボランティア
女川原発の塔が見える牡鹿半島
2020 年 7 月 21 日

今野さんは、2011 年のフクイチ・メルトダウン(炉心溶融)の時、女川原発に働かれていました。女川も非常時であったけれども、福島県浪江町の妻と子どもが気がかりでした。浪江町は 110 キロ以上離れています。5 才の息子颯人(はやくと 浪江幼稚園年中組)と妻は無事だろうかと思ったが、電

⁷ 『苦海浄土—わが水俣病』(石牟礼道子 講談社 1979 年 283 頁)。

⁸ フクイチ、第二をはじめ、全国の原子力発電所で自動制御の計測器を取り付けたり検査したりする仕事、計器(自動制御措置電子変換器 エレクトロニクス)のメンテナンス、検査などに従事。

話が通じません。15日朝に女川原発を出て、石巻市まで出てきてようやくメールで連絡がつき、茨城県にある妻の伯母の家に避難していることがわかった。午後8時に茨城県のJR古河(こが)駅に着いて改札を出たとたんに小さな体がぶつかってきた。「パパ、生きてた」そう言って足にしがみつく。息子だった。「足、ついているね」と確認していた。死んだと思っていたようだった。抱き上げると、首に抱きついてきた⁹。

原発従事者から科学的なしきい値¹⁰について帰神してからも教えていただくことになりました。

(2) 科学で否定される因果関係

a. 小児性甲状腺ガン

甲状腺がんが福島県の子どものに多発しています。親のみなさんは不安を抱えています。しかし、国や県が放射能との因果関係を否定します。科学的根拠がないという言い分です。医師の立証と、法律家の考える立証は相反します。法律家はリスクを「否定できなければ」、リスクがあると考えます。一方、科学者(医師)は学会で放射線と甲状腺ガンとの関係が証明されていない、つまり因果関係がないから「リスクは証明されていない」、と否定します。

熊本県の水俣病裁判も、有機水銀と病気との関係は科学的レベルでは証明できないけれど、原因を追っていきますとチツの廃液を流した排水口にたどり着きます。その奥に入って、水俣病の発症とチツの廃液の因果関係を科学的に証明できませんけれど、法的には限りなくクロということで、裁判では因果関係について肯定されました¹¹。

b. 知見不足

もちろん科学が常に正解を出せるはずだと考えるのは一種の信仰のようなものと述べる大阪大学名誉教授の小林傳司(ただし)氏は、朝日新聞に寄稿されていました。「最近、専門家の意見を聞く前に政治家が結論を出して、専門家が政治のお墨付きに使われているのではないか」、「今の分科会は政治の諮問に答申するだけ、しかも文案を官僚があらかじめ準備する伝統的な省庁の審議会のように変わってしまった」、と嘆いておられます¹²。

原子力発電プラントの建設費は、発電出力1kWあたり2000ドルかそれ以下であろうと権威ある産・官・学の機関やIAEAは取らぬ狸の皮算用にはしゃいでいました¹³。

元GE技術者の佐藤暁(さとし)氏は、日本の原子力発電所の安全審査制度は、アメリカNRCのそれと比較して、公衆の意見を拾い上げる基礎に欠けている、と指摘されています¹⁴。

「公衆」の意見、つまり「公共」の意見です。とりわけ被災地こそ「公共空間」であり、現場の被災者の声こそが真実を語っている場合が多いのです。

9 『地図から消される街』3.11後の「言っではいけない真実」(青木美希 講談社現代新書 2018年 44頁)。

10 しきい値 「条件分岐の境目となる値」Threshold。

11 『道しるべ』第14号(「子ども脱被ばく裁判」の会 2020年5月号 6頁)。

12 『朝日新聞』(2020年8月28日付)。

13 『科学』No.7(岩波書店 2017年 618-623頁)。ジョン・ロックフェラー(石油)、アンドリュー・カーネギー(鉄鋼)、ヘンリー・フォード(自動車)、ビル・ゲイツ(コンピューター)に並ぶような人物は、原子力産業には登場していません。

1986年のチェルノブイリ原発事故以降の15年間、世界屈指の企業が、飛びついた原子力カルネッサンスがありました。日本も例外にもれず、東芝は、2006年に54億ドルでウェスチングハウス(W社)を買収します。2000年に入ると、海面の上昇、北極海の氷の縮小、世界各地で起こる干ばつ、異常気象、災害により、米国では、原子力発電こそ地球温暖化に対抗する最有力の解決策として浮上してきました。マサチューセッツ工科大学(MIT)は2050年までに、米国だけで300基、世界では1000基が運転されるようになると試算していました。

14 『科学』(岩波書店(2014年8月号 834頁))。

c. 防災, 補償, 復興をしたくない「お上(かみ)」

災害大国にあつて、「公共空間」を支配しているかのように振る舞っている産・官・学は現場に足を運びません。

「イエスは言われた。『あなたがた律法の専門家にも災いあれ。あなたがたは、人に背負いきれない重荷を負わせながら、自分ではその重荷に指一本も触れようとはしない』(ルカ 11:47)。

九州北部の豪雨による福岡県朝倉市杷木(はき)松末(ますえ)の集落の孤立(2017年7月5日), 海から離れた岡山県倉敷市真備(まび)町箭田(やた)の洪水(2018年7月7日), 北海道厚真町地震(2018年9月6日), 佐賀県などを襲った六角川の氾濫(2019年8月27日), 千葉県房総半島の台風15号(9月9日)および台風19号(10月12日), 球磨川氾濫(2020年7月4日)などの爪痕を知ろうともしません。怒濤のように押し寄せる濁流に立ち向かう知性, 勇気, 力がありません。

危機の時代にあつても, 名声, 金銭, 社会的地位をガードするばかりに汲々としています。一方, 聖書は, 「また, あなたがたが両手を広げても 私は目をそらし あなたがたが祈りを多く捧げても, 聞くことはない。あなたがたの手は血にまみれている。洗え。身を清くせよ。あなたがたの悪い行いを私の目の前から取り除け。悪を行うことをやめよ。善を行うことを学べ。公正を追い求め, 虐げられた者を救い 孤児のために裁き, 寡婦を弁護せよ」と「公正」を軽んじないようにすすめます。(イザヤ 1:15-17)。

「災害」に立ち向かう動機があつても, ボランティア団体の中には, レビヤタンといかに闘うかより, いかに「お上(かみ)」に気に入られるかに一喜一憂している傾向があります。

レビヤタンについて, 「地の上にはこれに肩を並べるものはない(ラテン語 *Non est potestas super terram quae compareturi*.)。レビヤタンは恐れを知らぬ被造物だ」と描かれています。(ヨブ 41:25)。レビヤタンは「平和」を口では唱えながら, 軍事的な「安保」を唱導します。政治学者である宮田光雄東北大学法学部名誉教授は, 軍事「安保」について戒めておられます。「安全保障の道を通して《平和》にいたる道は存在しない。なぜなら, 平和は敢えてなされなければならないことであり, それは一つの偉大な冒険であるからだ。……平和は安全保障の反対である。安全を求めるといふことは, [相手に対する]不信感をもっているということである。そしてこの不信感が, ふたたび戦争を引き起こすのである。……武器をもってする戦いには, 勝利はない」¹⁵。

隣国の脅威を煽って, 軍事費を増大するばかりで, 被災者への災害補償は軽んじられています。

(3)川辺川ダム

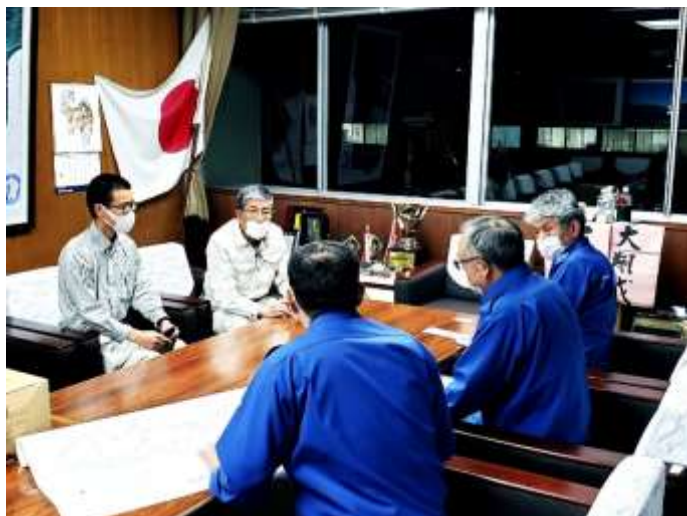
a. ダムありきの球磨川豪雨検証委員会

2020年4月7日, 熊本県南部の球磨川流域などの水害をもたらしました。熊本県内の犠牲者は65人。そのうち, 球磨川流域の犠牲者は50人。死因は49人が溺死(疑いも含む)。球磨村の25人, 人吉市の20人はいずれも球磨川流域の犠牲者数です。河道埋塞(まいそく [河川や道路が土砂崩れ等によって塞がれること]), 堤防決壊, 側方浸食の被害が出ました。球磨川の支流のひとつ, 錦町の小纏川(こさでがわ)の氾濫, 川沿いの低い土地への溢水(いっすい [堤防がないところで水があふれる])氾濫¹⁶が襲いました。人吉市や, 近隣の住民は市房ダムの放流が事前にあつたにちがいないと疑心暗鬼に陥っています。

¹⁵ 『平和のハトリヴァイアサン』(宮田光雄 岩波書店 1988年 252頁)。

¹⁶ 『人吉新聞』(2020年9月3日付)。

2016年4月の熊本地震本震の時と同様、神戸国際支縁機構はその日のうちに熊本県芦北(あきた)町に到着しました。SNSに『助けて』の声。当日、下唇をかみながら現地に向かいました。



熊本県芦北町町長室
2020年7月4日

犠牲者11名を出した芦北町町長室で、藤崎正司副町長、岩田繁義教育長、福田貴司総務課長と面会。町全体の地図を見せてもらいながら佐敷川、湯浦川の被害状況について聞かせていただきました¹⁷。

球磨村に向かう途中の球磨川水系の支川(しせん)の砂防ダムにしてもすべて砂が堆積していました。治水効果もなければ、アユやサケなどの生態系も損なわれていました。



第5次球磨川(熊本豪雨)ボランティア
2020年8月3日
球磨鉄道第四橋梁
右から村上裕隆,
大島健二郎, 北村恭男

ダム撤去が国際的な流れになっています。たとえば、アメリカのフランクリン・ルーズベルト大統領が、1933年から始めた経済政策は「ニューディール政策(新規まき直し政策)」といわれ、筆者も中学校時代に習った記憶があります。失業者を集めてテネシー川に300を超える多目的ダムを建設し、失業者の救済に寄与させました。しかし、1970年代以降、アメリカはダム撤去をすすめ、

¹⁷ 季刊誌『支縁』No.32(2020年8月日1頁)。

700 か所を超える堰やダムがなくなりました。アメリカ開墾局総裁のダニエル・ビード氏は来日し、「ダム建設の時代は終わった」と講演しました¹⁸。

今回、国はこれまで熊本の地元が反対してきた「川辺川ダム」があったならば、4700 トン、つまり 4 割の流量を減らすことが出来たと、球磨川豪雨検証委員会で、蒲島郁夫熊本県知事や流域 12 市町村の首長たちにダムの必要性を説きました¹⁹。しかし、今本博健京都大学名誉教授は、たとえ川辺川ダムがあったとしても 2000 トンぐらいしか減らず、6500 トンが人吉市を襲い、甚大な被害は避けられないと反論しています²⁰。

国交省がダム建設を蒸し返してきていますが、熊本県民の県民が女川町議員のように、経済的な損得勘定で判断されないように願うしかありません。「強欲で貪る者はその家を煩わせ 賄賂を憎む者は生きる」と記されていますように、強欲で貪る、貪欲さを否定しない価値観が蔓延している「家」、国家は立ちゆきません。キリストは言われました。「あらゆる貪欲に気をつけ、用心しなさい。有り余るほどの物を持っていても、人の命は財産にはよらないからである」(ルカ 12:15)。人吉市の高級住宅街で、最高級の自動車、家具、財産があっても、所有物は水泡に帰したのです。

「その日、主は鋭く大きく、強い剣によって逃げようとする蛇レビヤタンと曲がりくねる蛇レビヤタンを罰し また、海にいる竜を殺される」と描かれているように「蛇」のように無辜の民を泥で球磨川流域の人々を襲ったのです(イザヤ 27:1)。

国交省が水害からの安全のためという利権構造によって新たなダムを建設しようとする圧力に対し、苦悩するダム反対の蒲島郁夫熊本県知事。ちょうどフクシマ原発が人間の夢を与えるという技術テクノロジーの過信が人災を引き起こした構図と似ていてのではないのでしょうか。水銀中毒を風化させてはなりません。熊本県水俣市の苦海浄土を忘れまじ。

「誰もダムを造ってもらいたいもんはおらん。国だけたい」と人吉市の住民は怒っておられました。



日本一透明度が
高い 川辺川

¹⁸ 『日本のダムを考える』(大熊孝共 岩波ブックレット 1995 年)。

¹⁹ 『熊本日日新聞』(2020 年 8 月 27 日付)。

²⁰ 『朝日新聞』(2020 年 9 月 4 日付)。

b. ダムと原発事故の共通点

原発事故で住民の暮らしを根こそぎだいなしにし、仕事がなくなり、生き残った会社も給与をカットされています。一方、役所勤めの公務員は夏のボーナスも支給されています。

過疎、高齢化、少子化と限界集落であった球磨村も他の地域と同じです。ひとりでも都会から田舎へ越してきてもらおうキャンペーンとして、15年定住すれば、土地は自分のものになるとPRしました。8年前に新築の家をローンで建設した舟戸さんと前日、無料で入浴をすすめる鳥越肖男さんの浴場で知り合いました。小学生2人を育てる親として新たな家を建てるとなると、二重ローンを覚悟しなければならないと言われました。30年後も継続して返済できるかどうか不安でたまらない様子がうかがえました。

民衆はいつまで泣き寝入りするのでしょうか。たった300万円では全壊の家から新築にすることなどどうも不可能です。二重ローン、子どもの教育費、くらしはどん底です。森林の手入れより、土木優先による生態系破壊、地球温暖化のせいにして「お上(かみ)」は無駄な支出のプロジェクト大好き症候群。挙げ句が路頭に彷徨う市民たちの悲哀の旋律が日本列島にこだましています。

生活保護を受けている人たちが神戸市の小野浜で炊き出しに並べられます。多いときには150人ほどになります。その内、140人ほどが月に12万円受け取っておられます。ちなみに、2014年4月以降、神戸国際支縁機構は、生活費を受給されていない路上生活者を対象に炊き出しをしています。神戸市全体では20人もおられません。

全国すべての人を対象に、国は一律10万円の「特別定額給付金」を提供しました。そうであるなら、家、仕事、家財を災害で失った人たちに、一律30万円を支給することを提案します。生活再建の見込みが立たない全壊の住民に休業補償を行うべきです。そのためには国は、国会議員の歳費、公務員の給与をカットするなり、被災者を支援する財源はオリンピック中止、宇宙開発中止、リニア中止など、とりわけアメリカより軍事の装備の爆買いをやめるなら、30万どころか70-80万円を配布するでしょう。ノーベル平和賞候補であった賀川豊彦[1888-1960]は解放の神学の旗手として、軍備に反対し、生協、農協、労働組合などの創設に努め、「最も小さい者の一人」(マタイ25:45)に対して取り組みました²¹。

c. レビヤタンの正体

足尾鉍毒事件で被害住民のために全身全霊を持って、政・官・財・学・報の癒着に立ち向かった田中正造[1841-1913]の日記には、次のように綴られています。「古への治水ハ地勢ニよる、……然るに今の治水ハ之に反し、恰(あたか)も条木[定規]を以経の筋を引く如し。山ニも岡ニも頓着なく、地勢も天然も度外視して、真直ニ直角ニ造る。之造るなり、即ち治水を造るなり。治水は造るものニあらず……」²²。「治水は造るもの」ではなく、自然は自然によって復興することを発題されました。

ダムより球磨川流域の治水策が怠っていたことが堤防決壊やダムの緊急放流によって多くの被害を出した人災であったことを政・官・財・学・報は認めるべきです。「しかし、彼らは私に聞き従わず、耳を傾けず、かたくなになり、先祖よりさらに悪を行った」に記されているように、本来の「公共」である民衆を抑圧し、自然界を制御されている存在を無視し、良心に焼きごてをあてられたようなかたくなさで生態を破壊しています(エレミヤ 7:26)。かつて電力は小水力発電により、個人、

²¹ 拙稿 <http://kicc.sub.jp/ecumensty/%E8%B3%80%E5%B7%9D%E8%B1%8A%E5%BD%A6%E3%80%80/>

²² 『田中正造選集(6)神と自然(谷中II)』(田中正造 岩波書店 1989年 201頁)。

隣保，集落ごとに河川の落差を用いて供給していました。いわば水車のようなものでした。電気から再生可能エネルギーへの転換が地球温暖化，森林消失，自然生態を回復なさしめます。

日本の最初の河川法は，1896[明治 29]年に制定されました。それまでは累々と地域の住民が主体となって続けてきた慣行や伝統的な手法，たとえば石積みの堰堤(えんてい)などで世話をしてきました。それが「国家が管理し，代わりに治水費が税金から支払われることになった」と，大熊孝新潟大学教授の「ローカルな思想を創る」は提言されています。また「千曲川・信濃川復権の会」の矢間秀次郎共同代表も水系の思想を次のように発題されています²³。

「川は源流から河口までトータルにもものを見ないと，見誤ります。……日本が高度成長するためには鉄やセメントを作らなくちゃいけない，作った以上はどこかに使わなくちゃいけない。有用か無用ではない。そこで自然の水循環を破壊してまで，セメントの使い場を探し，用水路さえ三面コンクリート張りにした。すると雑草が生えず，地元の人々は手間がなくなりました。しかも地元の土建業をはじめ産業にお金が落ちます。その方がよいのではないかという方向に世論が持っていかれるわけです。半年もすれば，清流がなくなり，蛍が消え，人々も水辺から遠ざかりました」，と。

清流でなければできないものもあります。人吉市で壊滅的な被害の中から立ち上がろうとなさっている酒造会社「織月(せんげつ)」の堤純子社長は言われました。「この焼酎は清流から汲み取ったもので，川辺川なんです。お米はヒノヒカリという一番良いものを用いています」，と。確かに 7 月 5 日に見た川は泥の色をしていましたが，6 回目の訪問，8 月 25 日に見た川はそれまでに見たこともない透明度があり，納得が이었습니다。2019 年 8 月佐賀県などを襲った記録的大雨(8 月 27 日から)はヒノヒカリが植えられた田んぼを襲いました²⁴。食糧安保をおろそかにはできません。

地元の 85 パーセントの住民が川辺川ダムを反対し，2008 年に蒲島郁夫熊本県知事は反対表明を出し，ダム建設は中止になりました。しかし，国交省は住民が要求する河床掘削(くっさく)について，協力しないで今日に至りました²⁵。

石崎勝義工学博士は，球磨川水害の政府の不都合な真実について，『科学』誌で詳述しています。「本来の治水目的を忘れたハコモノづくりの治水から脱して，命の危険にさらされている住民を守るための危機管理型の治水にシフトしなければならない」，と。河川整備計画の策定まで政府が怠っていたことを指摘されています²⁶。

川辺川ダムに代わって治水策を盛り込んだ球磨川水系河川整備計画を国は無視しました。ダム事業に固執したままで，河床を掘削すること，河川流域の宅地のかさ上げ，ダムによらない治水などが棚上げされたまま 12 年間に無為に経過したのです。したがって，球磨川の公共土木施設の豪雨被害 1352 億円は人災によるものです²⁷。政・官・財・学・報のレビヤタンは猛省すべきです。「悪しき者はかき回された海のように静めることはできず その水は泥とぬかるんだ土とを吐き出す」(イザヤ 57:20)。ダムができるとすぐに土砂が底に滞積して，清流でなくなります。

日本一美しい清流，川辺川を守ることは子々孫々への責務です²⁸。

²³ 『ローカルな思想を創る—脱世界思想の方法』「川と人間の関係から—治水技術と地域の民主主義」(大熊孝 農文協刊 124 頁)。『揺るぎのない時代を生き抜く』(矢間秀次郎 合同出版 2011 年 173-174 頁)。

²⁴ 佐賀水害ボランティア

http://kisokobe.sub.jp/article/proposal/15029/?fbclid=IwAR3npPpPKkv1mmMtjx7Ea0xtlpn1czhwg919h0nXUj_f

²⁵ 国交省によると，人吉層という軟岩層が露出して河床が安定せずに護岸や橋脚が保持できないから河床掘削はできないと拒んできました。

²⁶ 『科学』9 月号(石崎勝義 岩波書店 2020 年 9 月 775 頁)。

²⁷ 『日本経済新聞』(2020 年 7 月 20 日付)。

²⁸ 川辺川は「水質が最も良好な河川(AA)」として 2006 年度以降 13 年間連続です。他に追従を許していません。『熊本日日新聞』(2019 年 7 月 2 日付)。『翼の王国』No.603 (2019 年 9 月号)。

<結論>

「地の上にはこあれに肩を並べるものはいない」(25 節)とあるレビヤタンについて聖書は書いています。「ポストコロナ」として、一番目に、「経済」です。機構はベーシックインカムを 21 世紀に入る前から唱えています。経済格差から階級格差が顕著になり、「最も小さな者の一人」に対する無関心、無知、抑圧が行われています(マタイ 25:45)。「無知」は「永遠の懲らしめ」にいたる「罪」です。(46 節)。孤児、戦争や被災により夫をなくした独身女性、高齢の独居者、えん罪で投獄されている人、外国人が含まれます。権力が有罪を誘発するのです。自分の意にそぐわない人物を排除し、権力をゆるがないものにしていきます。しかし、レビヤタンは沈黙し、ほくそ笑んでいます。

二番目に、再生可能エネルギーを電気に代わって迎える地球にシフトするカイロス(時)です。

三番目に、「食糧安保」を通じて、自分たちの食べるモノは地産地消に戻さないと、食糧確保のため、諸外国との軋轢が生じ、軍事安保を叫ぶ事態になるでしょう。軍事より食糧安保が急がれます。日本列島を効率、能率、便利さを求めて改造するではありません。そのためにも「田・山・湾の復活」について関心が喚起されるように家庭で子どもへの養育、学校で教育、社会での成育が望まれます。

この数年、工業地帯へ多量の水を供給する経済優先の自然改変が異常気象と連動して災害を連続して引き起こしています。つまりレビヤタン＝公共事業はしぶとく古いさばえながら、古里の伝統、文化、郷土の味を喰らい尽くしてきました。一筋縄では退治できない怪物です。1954 年アメリカ軍の水爆実験により被ばくした福竜丸の翌年、映画界に登場したゴジラより始末が悪く、ダムからくねくねとのたうち回って暴れています。

子ども脱被ばく裁判について、機構は原告のひとりです。次週も聖書からご一緒に、考慮したいと願っています。アーメン。

説教原稿を翌週、神戸国際支縁機構の村田充八理事に校正していただきました。また不明瞭な箇所について訂正していただきました事務局の翻訳家徳留由美氏、佐々木美和氏にも感謝します。